

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®] 認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 釧路ガス株式会社

住所：北海道釧路市寿4丁目1番2号

氏名：取締役社長 両角 幹彦 ⑩

法人番号：1460001000398

(共同申請者) 株式会社JBP

住所：東京都板橋区高島平1-79-3

氏名：代表取締役 吉川 京二 ⑩

法人番号：8011401024505

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	釧路港発 海と街をつなぐ「コンブの森」地産地活プロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	人工基盤 吸収源の新たな創出
プロジェクト情報	<p>当プロジェクトは、釧路市に本社を構え、創業90年を迎える「釧路ガス株式会社」とブルーカーボン事業を推進する「株式会社JBP ジャパンブルーカーボンプロジェクト」の共同プロジェクト。釧路ガスは、都市ガス事業と電力販売事業を釧路市を中心とした地域で営んでいるが、脱炭素への取り組みは喫緊の課題となっている。ガス事業という性格から、地元への貢献は他産業よりも思いは強く、様々な脱炭素関連の取り組みを行い、釧路市のゼロカーボンの取り組みに貢献していく考えである。</p> <p>その中で、新たに2022年よりJBPが実施していた釧路港西港区島防波堤におけるブルーカーボン実証実験へ釧路ガスが参画し、両社による釧路でのブルーカーボンの取り組みが開始された。自ら藻場の育成による二酸化炭素の吸収源を造成したいという思いから、2023年5月に「釧路ガス昆布の森」構想を発表。釧路市から釧路港西港区第4埠頭付近の海域を借り、ロープ方式の昆布の森を造成することを決定。通常の水産養殖とは異なり、水揚げは一切せず、単純にブルーカーボン創出を狙うもの。ロープを設置し、そこにオニコンブの種苗を取り付け養生させ、また、天然のガッガラコンブ、オニコンブ等も併せて付くことも狙ったブルーカーボンを創出するプロジェクト。</p>
クレジット取得理由	<p>釧路ガスは、昨年、釧路市東部漁業協同組合が地元で初めて創出したJブルークレジットを購入。釧路市の一大お祭りである「くしろ港まつり」へ購入した3トン分のJブルークレジットを寄贈。イベントで発生する二酸化炭素を相殺した。これにより、釧路市初のカーボンオフセットのイベントとなった。</p> <p>このような活動を継続していくためにも、自ら創出させたクレジットを活用するとともに、地元で発生したJブルークレジットの購入を継続租テイク必要があると考えている。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>クレジット取得後、今年と同様釧路市で二酸化炭素を排出するイベントや施設等でオフセットを行う。</p> <p>また、釧路市からの借用期間の延長が認められれば、クレジットを次年度プロジェクトに使用、ロープ長の延長も検討予定。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>本プロジェクトは、通常の水産養殖ではなく、水揚げは一切しない方式。釧路港西港区第4埠頭付近の海域に、2024/11/20 100mロープ3本を設置。ロープにオニコンブの種苗系を取り付けるとともに、このロープに種苗以外の天然のオニコンブ、ガッガラコンブ等がつくことも狙い、昆布の森を造成した。2025/8/8 養生状況を確認、調査を実施。</p> <p>併せて、2024/12/10ブルーカーボン活動の一環として、地域の小学生向けにブルーカーボンの普及啓発を目的とした環境授業を実施。授業の中で、昆布の森に対する「思い」を書いたメッセージカードを作成し、種苗系と共にロープに取り付ける等参加型の授業とすることで、小学生が「自分事」としてブルーカーボンをとらえる内容とした。(添付資料参照) また、釧路市東部漁業協同組合が、地元で初めて創出させたJブルークレジットを購入。2025/8/1～3に実施された釧路市の一大お祭りである「くしろ港まつり」へ購入した3トン分のJブルークレジットを寄贈。イベントで発生する二酸化炭素を相殺した。これにより、釧路市初のカーボンオフセットイベントとなった。</p>
プロジェクト実施開始日	2024年10月 ～ 現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】 海藻 【藻場】 コンブ場 【構成種】 その他
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 213(m) 【ロープ長の算定根拠】 用意したおよその全体のロープ長を、GPSデータより、下記の通り、算出した。そこに各昆布がどの様に生えているかは、目視にて確認。1本あたりのロープから5カ所(約20m間隔)選出し、昆布の養生状況を確認、測定。オニコンブの養生状況は、ロープを少しずつ全長に渡って、引き上げ、養生状況を確認。オニコンブに関しては、総ロープ長(355m)の60%と認識。【オニコンブ】 岸壁側ロープ：全体長137m x 60% = 82.2m、中央ロープ：全体長109m x 60% = 65.4m、沖側ロープ：全体長109m x 60% = 65.4m 総計 355m (137+109+109) x 60% = 213m 【ロープ長の資料】 添付ファイルなし
	④吸収係数	【水揚量】 5.05(t) 【水揚量の算定根拠】 別添資料の通り。1本あたりのロープから5カ所(約20m間隔)選出し、昆布の養生状況を確認、測定。オニコンブの養生状況は、ロープを少しずつ全長に渡って、引き上げ、養生状況を確認。オニコンブに関しては、総ロープ長の60%と認識。 【水揚量に関する資料】 添付ファイルなし 【残置量】 5.05(t) 【残置量の算定根拠】 水揚げは一切行っていないため、試算された総トン数をそのまま残置量とした。 【残置量に関する資料】 添付ファイルなし

項目1	④吸収係数	<p>【含水率】 85(%) 【含水率の算定根拠】 R3.3 水産庁 第三版 磯焼け対策ガイドライン参照 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【P/B比】 2.3 【P/B比の算定根拠】 R3.3 水産庁 第三版 磯焼け対策ガイドライン参照 北海道のコンブなので文献値オニコンブの2.3で代用 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目1	④吸収係数	<p>【炭素含有率】 30(%) 【炭素含有率の算定根拠】 R3.3 水産庁 第三版 磯焼け対策ガイドライン参照 コンブ場なので30% 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2-2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 0.25(t-CO₂)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(ロープの長さ：213(m)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 85%</p> <p>(吸収係数：0.00117758×評価：85%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船 (11kW / 15PS 程度)</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 1.00(h)</p> <p>【出力】 11.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO₂排出量】 0.005(t-CO₂)</p>

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 ロープをおろした海域には一切海藻・海草類は生えていないため。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.186(t-C02)

項目2	①対象生態系面積の 算定方法	【生態系】海藻 【藻場】コンブ場 【構成種】その他
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とするロープの長さ	<p>【ロープ長】 106.5(m) 【ロープ長の算定根拠】 用意したおよその全体のロープ長を、GPSデータより、下記の通り、算出した。そこに昆布がどの様に生えているかは、目視にて確認。1本あたりのロープから5カ所(約20m間隔)選出し、昆布の養生状況を確認、測定。ガッガラコンブの養生状況は、ロープを少しずつ全長に渡って、引き上げ、養生状況を確認。ガッガラコンブに関しては、総ロープ長(355m)の30%と認識。【ガッガラコンブ】 岸壁側ロープ：全体長137m x 30% = 41.1m 中央ロープ ：全体長109m x 30% = 32.7m 沖側ロープ：全体長109m x 30% = 32.7m 総計355m(137+109+109)x30% = 106.5m 【ロープ長の資料】 添付ファイルなし</p>
	④吸収係数	<p>【水揚量】 0.68(t) 【水揚量の算定根拠】 各ロープにおいて5ヶ所(約20m間隔)からサンプルを採取。天然ガッガラコンブが養生していた。生えている株における本数を確認し、5ヶ所から採取した昆布の重量を計測し、ロープ全体の重量を推定。 【水揚量に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残置量】 0.68(t) 【残置量の算定根拠】 一切水揚げは行っていない為、試算した総重量を全量残置量とおいた。 【残置量に関する資料】 添付ファイルなし</p>

項目2	④吸収係数	<p>【含水率】 85(%) 【含水率の算定根拠】 R3.3水産庁 第三版 磯焼け対策ガイドライン参照。 【含水率に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【P/B比】 2 【P/B比の算定根拠】 R3.3水産庁 第三版 磯焼け対策ガイドラインを参照。また、昨年度申請した釧路プロジェクトと同等とする。 【P/B比に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目2	④吸収係数	<p>【炭素含有率】 30(%) 【炭素含有率の算定根拠】 R3.3水産庁 第三版 磯焼け対策ガイドライン参照。 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	--

項目2	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2-2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 $0.028(t-CO_2)$</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(ロープの長さ：106.5(m)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 85%</p> <p>(吸収係数：0.00026928×評価：85%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	船舶使用なし

項目2	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】 ここは海底は砂浜、水深約5mの海域です。 証拠写真のように全く海藻・海草類は生えていません。</p> <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	0.021(t-C02)

合計のクレジット認証対象の吸収量	0.2 t
------------------	-------